

リニア新幹線沿線信用金庫共同調査

リニア中央新幹線に関するアンケート調査結果概要(2)

～ 長野県・飯伊地域は期待と不安が交錯 ～

前号に続き、リニア沿線信用金庫（山梨県：甲府・山梨信金、岐阜県：東濃信金及び当金庫）共同調査の当県・地域分調査結果を紹介する。

1 リニアに対する期待と不安

「リニア中央新幹線に期待しますか」「リニア中央新幹線に不安を感じますか」について、男女別に見てみた。

「期待する」は男性の方が高約6ポイント高く、「不安を感じる」のは女性の方が約5ポイント高い。「期待せず」「不安を感じる」面は女性の方が強いといえそうだが、これを別の「リニア新幹線を利用しますか」の質問項目でみる。男女別では、「殆ど利用しない」「利用しない」の比率は男女で大きな差は見られないように思える。これに対し、「大いに利用」は男性13%に対し女性4%と大きな開きがあり、「大いに利用」「ある程度利用」計でも男女の差が大きく出ている。その分は「どちらともいえない」が男性8%、女性20%の差に表れている。

女性の方にリニア新幹線を利用するイメージがまだ描けていない、あるいはリニア新幹線に関する情報取得が十分でないことがこの結果になっているといえるのではないかと。

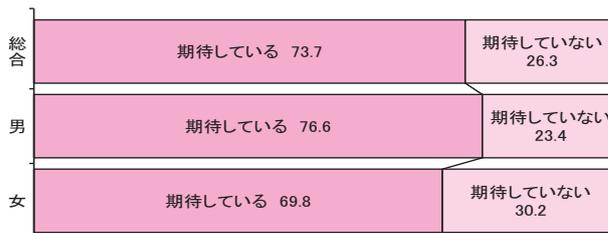
2 リニア利用の年代別状況

「リニア新幹線を利用しますか」を年代別にみると、「大いに利用」は50代をピークに60代、70代、80代と徐々に低下。10代から40代にかけては50代、60代をやや下回っている。

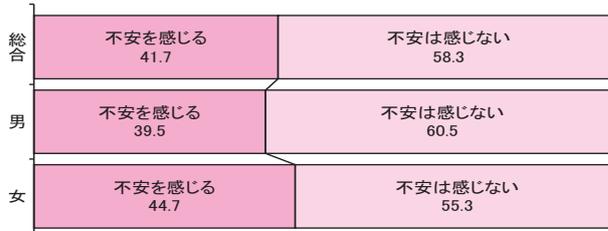
これが「大いに利用」「ある程度利用」の計では、20代をピークに30代で若干の不連続となっているものの80代に向かって徐々に下がっていく。

20代、30代、40代はこれからリニアを利用する世代として期待が高く、10代（主に高校生）は、情報取得が十分でないためなどからリニア利用について明確な判断がついていない状況といえるのではないかと。

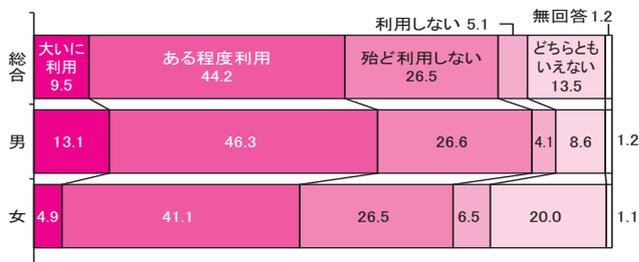
Q：リニア新幹線に期待しますか



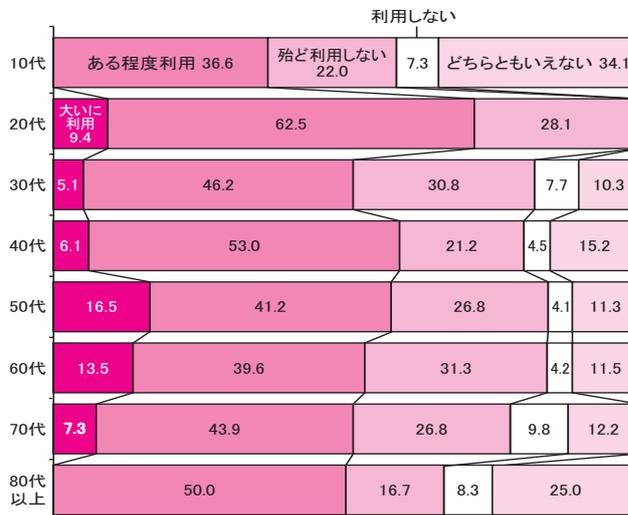
Q：リニア新幹線に不安を感じますか



Q：リニア新幹線を利用しますか 男女別状況



Q：リニア新幹線を利用しますか 年代別状況



3 当地域が描くリニア開通後の光景は

リニア中央新幹線の開通後の当地域・経済についてどのような期待や見通しを持っているか、各項目の回答状況から窺うこととする。現在、リニア沿線4金庫による取りまとめ中で、そこで得られた神奈川・山梨・岐阜・愛知の各県別データの状況とも比較する。

① 観光客の来訪者数(再掲載)

前号でも触れたが、来訪者数「増加」「やや増加」計で72%と県別で最も高い。これに次ぐのは山梨県64%、岐阜県59%の順である。

② 地域の商業力

リニア開通に伴う地域内の事業者の増減や地域の購買力の推移という両面を意識しての回答となっているとみられるが、「増加」「やや増加」計で42%。「やや減少」「減少」計では17%と4県中で際立って大きい値(他県は2~5%)。

③ 地域内の事業所数

事業所数の「増加」「やや増加」計で40%。山梨県は36%、岐阜県は33%程度と当地域の期待は大きいといえるのではないかと。

④ 仕事と雇用

「地域内の仕事・顧客の増減」の質問項目では「増加」「やや増加」計が46%、「利域内の雇用(創出と流失)」項目では「増加」「やや増加」計が37%となっている。雇用の「やや流失」「流出」計は22%(他県は7~12%)で、新幹線開通により雇用の縮減に繋がることの危惧が他県よりやや大きくなっているとみられる。

⑤ 地域内の人口

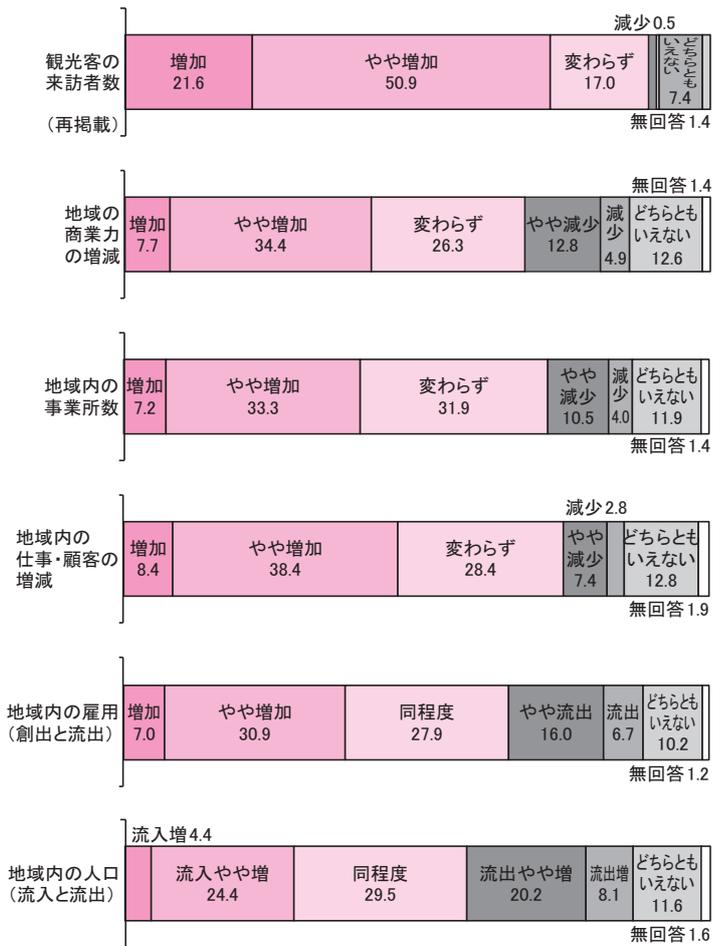
地域内の人口見通し(社会的増減)については、「流入増」「流入やや増」計28%、「流出やや増」「流出増」計28%とほぼ拮抗した結果となっている。

以上の項目を他県と比較すると、当県・地域はプラス面の評価比率は他県とほぼ同水準かやや高い、つまり期待はそれなりに高いが、「やや減」「減」といったマイナス面評価は、他県と比べると更に高い。当県・地域ではリニア開通に伴う「ストロー効果」や「競争の激化」といった面をたいへん厳しく捉えている、ということが読み取れる。

⑥ 長野県駅の利用者数

計画に対する利用者数の予測は右グラフの通りで、「やや少ない」「少ない」計は43%と4県ではいちばん大きく、神奈川県駅の38%がこれに次いでいる。山梨・岐阜県駅は15~20%程度である。

Q: リニア新幹線開業による地域への影響については



(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)